

創立者 石田鍬徳先生の御礼挨拶文

学園創立への夢、抱負、そして決意



昭和16年(1941年)「明德学館」創設
名古屋市昭和区佐渡町3丁目



創立者 石田鍬徳先生



昭和20年(1945年)「名古屋英学塾」開設
名古屋市中区仲之町3丁目

御 礼 答

梅爛たる春の序幕を飾る櫻花もあちこち咲き初め、まことに心地よき時候となりました。高堂御一統様には御機嫌如何あらせられますか、御伺ひ申上げます。降つて私ごと、多年に亘る貴家の御懇篤なる御芳情に因り、今春漸く大学の課程を終り出す事が出来ました。これ一途に貴家の御熱誠なる御後援の賜に他ならぬのでありまして、茲に謹んで衷心感謝の意を表し、併せて御報告申上げます。省みますに、私ごと、身に負ふべき重くもなく上京以來既に六星儀、その間限りなき貴家の御厚情こそは私のさ、やかな一生涯に於ける忘れ難き安住の世界の示現でありました。謙やかに生き来りし事への感謝、快く学び得し事への感激、思ひ来り思ひ去るとき、胸中の感極りて言ふべき言葉もありません。遠く言葉を貴下の膝下に馳せ、こゝに謹んで限りなき御禮を申上げます。さて、今小き私の過去を回顧しますに、學窓と社會との二つの上におぼろなる世界を造り出し、學窓と研究とに榮しく快く遊んで参りましたのは、例へば疾風怒濤の暗夜に獨りあへかなる白雲の帯を結びしにも似て、誠に奇蹟と申すべきか存じます。而してこの夢の幻は、奇しくも今や貴家の尊き加へ、私には離るべからざる現實の世界なりと信じ得らる、やうになりました。否、むしろ是を以てより現實に即せしめ、より体系あるものたらしめて、私のさ、やかなる雲の礎石とし、その上こそ私の殿堂は築かるべきであると思ひます。そして向ふ中にも私の歩み来りし如き過程の青年學徒を一人たりとも微力を以て庇護し、援助する事が出来得れば私の至幸至福これに過ぐる物なき存じます。かゝるは未だ願ひ切らぬ個人の夢、稚き理想なるやも知れませんが、然し、かゝる意義深かりし世界をして、一層現實的に強化することが私の天與の使命なる事を自覚せしむるは、おぼろげな光も通るものがあります。しかし人間の意志には鐵石をも貫く力がある。砂たる一塊の存在にすぎない私ながら、背後に貴家の不斷の御温情を期待する時、天下何物か成らざるの意氣を以てここに奮起する次第であります。しかし乍ら、現在の私は申す迄もなく文字通りの徒手空拳如何に難しき現實であります。従つて先づ千里の道の第一歩を例年の方法により、浴衣地の鞆より始めたく、何れ近日拜題の上、御禮券々御願ひに及びたいと存じます。書中ながら不取敢書來の御厚意を拜謝し、いさゝか首途の所信を申述べて今後一層の御聲援を御願ひ申上ぐる次第であります。

昭和九年四月
石田 鍬徳
名古屋市中区村田町一丁目五十五番五号
名古屋英学塾(現名古屋英学塾) 創立者 石田鍬徳

創立者 石田鍬徳先生の御礼挨拶文(原文) (※2頁に再掲)

～ 創立者 石田鍬徳先生の「御礼挨拶文」掲載にあたり 理事長 石田正城 ～

学園創立者 石田鍬徳先生が毎朝、南方の名古屋城の金鯢を仰がれた生家(西春日井郡大野木村・現名古屋市西区大野木)が、庄内川の堤防拡張のため今年3月に取り壊されることになり、家財等を整理している中で上掲の文書が見つかりました。

この文章は早稲田大学二学部を卒業した昭和9年4月に、14歳で尋常小学校を卒業して以来13年間に渡る苦学生活に、物心共に支援くださった方々への御礼挨拶文です。

感謝とこれに応える夢、抱負を述べたものですが、初志貫徹、昭和16年に明德学館を創設して、今日の名古屋石田学園の礎石を築かれました。平成27年度は学園創設74年、ご逝去されて40年を迎えます。

本学園の学生、生徒諸君におかれては、自分の人生目標をしっかりと持てる人間性を養っていただきたいと願いたします。

特集 ～未来への足音～

- 星の城幼稚園 星城高等学校・中学校のグローバル化への取り組み
- ・星の城幼稚園 英語教育の取り組み……………①
- ・星城高等学校・中学校版 SGHの取り組み……………②

創立者 石田鍬徳先生の「御礼挨拶文」全文掲載……………②

親子で星城 星城美術館便り 卒業生の活躍……………③